



かぼちゃっこ

「笑顔きらきら・夢いっぱい・いきいきチャレンジ宮小っ子」



HP アクセスQRコード

ポジティブコミュニケーションで、やる気もアップ

～ 1年親子給食・保護者対象「やまがた子育て講座」より ～

6月15日（木）に1年生の保護者を対象に、「親子給食」と「子育て講座」を実施しました。本校の給食は、県内でも間違いなく5本指に入ると言い切れる（校長）、おいしい給食です。そんな給食を、親子で味わっていただきました。子供たちは、保護者と一緒にということで、いつも以上に笑顔で食べていました。保護者の皆様方からは、口々に「おいしい。」というご感想をいただきました。



楽しく親子給食



笹原アドバイザー

また、子育て講座では、県家庭教育アドバイザーの笹原英子氏を講師に、1年生の自立を促す親の役割について研修を深めました。「至れり尽くせり」の教育がどんな結末を招くのか、自立に向け「勇気づける」ことの大切さや、具体的な言葉がけなど多くの大切な示唆をいただきました。学校教職員にとっても、学びの多い講座内容でした。

講座骨子

- ◆至れり尽くせり（過干渉）の子育ての結末
反抗的・人付き合いが下手・人の目を気にする など
- ◆勇気づけるために
子どもを信頼する・プロセスと努力に目を向ける
人の役に立っていることを感じさせる
- ◆勇気づけるポイント
尊重する・認める・信じる・任せる



質問・感想発表場面

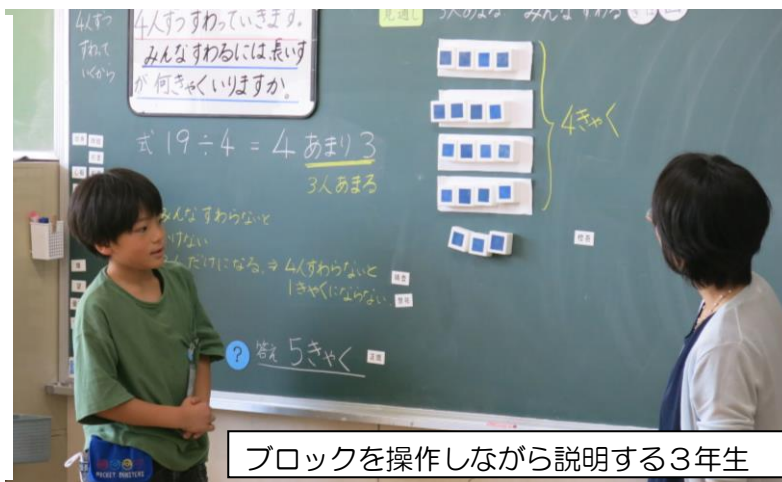
保護者感想より(抜粋)

- ・自分にも余裕がなく、自分でしてしまった方が早いので、してあげてしまうこともよくあるなと振り返ることができました。言葉がけは子供を育てるうえでとても大事だと思いました。
- ・ポジティブコミュニケーション。心にとめて子どもたちと関わっていきたいと思いました。1番最初にできること、ぎゅーっと抱きしめてありがとうと伝えることかなと思いました。小さいところからしていきたいです。
- ・過干渉になっているなと思いました。自分で考えられる子になってほしいと思いながらも、考える力を養う機会をうばっているなと思いました。まずは親の感情コントロールからがんばります。
- ・子どもが失敗する権利を親がうばってしまったことに気付きました。誉めてあげたいと思う気持ちが大きくなりました。

日々の授業改善を通して、子供の学力を伸ばす

学校生活の約8割は、授業。だからこそ、「授業が命」との思いを持ち、子供たちに「わかった。」「できた。」という喜びを味わわせることができるよう、日々担任は授業改善に努めています。

そのような中、6月19日（月）に第1回目の校内授業研究会を実施しました。3年担任の岸香織教諭が「あまりのあるわり算」の授業を提案。「4人ずつ長椅子に座っていく際に、残った3人をどうするか」について、おはじきや図を使って考え、真剣に悩んでいました。



理科が大好きな宮小っ子になって欲しい・・・

今年度、本校に教科専科（理科）として、真田泰子教諭が配置されています。4～6年の理科授業を行っており、深い教材研究の下、毎時間「楽しく、わかる、そしてよく考える」授業を子供たちに提供しています。日々の授業からは「理科に係る事象は、日常生活にたくさんあるよ。」そんな真田教諭の熱いメッセージが伝わってきます。若手、中堅教員にとっても素晴らしいモデルを示していただいております。しっかりと研修していきたいと思っております。

